実行委員長・座長のことば

1971年９月　東京医科歯科大学医学部医学科卒業
1971年12月　東京医科歯科大学医学部第三内科入局
1981年10月　東京都教職員互助会三楽病院第二内科科長
1992年４月　同　第三内科部長
2003年４月　同　副院長
2005年４月　同　附属生活習慣病クリニック院長

日本内科学会認定内科医、日本内科学会指導医
日本糖尿病学会専門医、日本糖尿病学会評議員
日本高血圧学会評議員
日本糖尿病協会東京都支部理事
神田医師会理事
東京医科歯科大学医学部臨床教授

田上　幹樹

第47回糖尿病週間講演会の実行委員長を務めさせていただきます三楽病院附属生活習慣病クリニックの田上幹樹です。半年以上経過した現在でも、恐怖の記憶が脳裏に焼き付いている東日本大震災が3月11日に発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、未曾有の大災害からの1日も早い復興を願うばかりです。大震災現場から多くの医療情報が伝わってきましたが、透析患者・糖尿病患者の医療の継続が非常に困難であることが分かりました。今年の糖尿病週間のテーマは早い段階で「連携による糖尿病治療の継続」と決まっていました。そこで糖尿病週間講演会の基調講演は「大震災と糖尿病医療」とし、誰もが興味を持つ話題について二人の先生にお話いただくことにしました。

まず仙台市内で開業されている奥口先生には東日本大震災の現場で診療に従事している医師という立場から、医師として考えていたことと現実とのギャップ、一番困ったこと、今後の対応ついて、等々貴重な、そしてまだ現在進行形の体験についてお話いただきます。続いて新潟県中越地震に被災し、復興に大きな役割を果たされた八幡先生に、これまでの経験に基づいて、大災害を乗り越えるためには個人としてチームとして何をなすべきか、についてお話いただきます。お二人の講演を拝聴すれば、災害に備えて日頃からどの様な用意をしておくべきか、災害時に糖尿病治療を継続するにはどの様な準備が必要か、大災害が起こってしまった場合にはどう対処すべきか、物、心、両面での答えが見つかるはずです。

パネルディスカッションでは「糖尿病と向き合うには」どうすべきか考えることにしました。糖尿病治療では、知識・技術に関する指導と並行して、行動科学や心理学的なデータに基づいた患者の心理状態にあわせた指導を行うことによって「患者の自己管理能力」が引き出せるのでは、という指摘があります。そこで今回は、①諸星先生から「自分自身を知り、自分に合わせた療養スタイルをみつける」ことが治療の継続には重要である、②市來先生からは患者さんのやる気を引き出す「エンパワーメント」がより良い血糖コントロールにつながる、③山田先生からは療養意欲が掻き立てられる「グルメな食事療法」にチャレンジする、というお話があります。先生方の講演とディスカッションの中から、自分にあった糖尿病ライフを送るヒントがつかめれば幸いです。